

神奈川県立平塚支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 平塚支援学校 第2回 学校運営協議会
開催日時	令和7年11月18日(火) 9:30~11:30
開催場所	多目的室
出席者	学校運営協議会委員:(敬称略) 渡部匡隆会長、定成幸代副会長、松戸結佳、小林三四郎、熊澤惇、久光陽一、高田君恵 校長 事務局:木村副校長、佐藤教頭、阿部事務長、三浦教育企画GL、小林教育推進GL、沢井総務GL、佐藤連携GL
会議資料	令和7年度第2回学校運営協議会開催要項、パワーポイント資料、令和7年度学校評価(中間評価)の概要、キャリア教育の構造図
議事録	<p>1 開会 校長あいさつ</p> <p>2 学校評価部会      (報告) 中間評価を4つの段階(○△×)で評価した。</p> <p>(1) 教育課程 学習指導      ①(目標)児童・生徒の実態に合わせたICT機器の活用を推進し、授業の充実を図る。      (中間評価) ○      • テーマを「ICTを活用した授業の充実・深化」とし、研究を進めている。7月に研究助言者を招聘し、助言をいただいた。      • 教員向け研修会を3回実施し、指導に役立てている。      • 教材教具や活用方法を教員間で効果的に共有できるようになっている。      ②(目標)児童・生徒の実態や取り巻く環境に応じた持続可能な教育課程を再考する。      (中間評価) ○      • キャリア教育の構造図の見直しを実施した。      • 近年の懸案事項である暑さに対応し柔軟に授業内容を変更した。また次年度に向けて新しい活動についての計画を始めた。      • 学校間交流を実施した。充実した活動ができた半面、相手校との調整がうまくいかないこともあった。</p> <p>(2) 児童・生徒指導・支援      ①(目標)教員の人権尊重の意識を高め、児童・生徒の指導、支援に生かしていく。      (中間評価) ○      • 人権尊重に係る自己点検シートを全教員に実施した。      • 教員対象の校内人権研修会を実施した。      • 学部独自の人権に関する教員アンケートを実施し、振り返りを行っている。(小A、高A)      • 人権尊重の視点を意識した指導を定期的、予防的に実施した。(高B)      ②(目標)校内研究と連動しアセスメント結果を個のニーズに応じた指導、支援に生かしていく。      (中間評価) △      • アセスメント活用に関する研修会を実施した。(7月)      • 研修会の事後アンケートの結果から、アセスメントの実施率や内容の理解度は高いが、実践に活かすことには、課題があることが分かった。      • アセスメントの結果に基づき、グループ編成して授業を実施した。(中A)      • アセスメントの結果を活用して、研究授業の協議や専門職とのケース会議を実施した。(小中B)      (目標)児童生徒の実態に適した給食指導を行う。      (中間評価) ○      • 食べ方についての介助方法カードを作成、活用した。      • 教員の配慮食の試食を呼びかけた。試食実施状況は向上したが、毎日は難しいという意見もあった。      • 食べ方や配慮について、言語聴覚士が教員に適宜、助言を行った。</p> <p>(3) 進路指導・支援      ①(目標)社会参加に向けた主体的、自発的なコミュニケーション力の育成を図る。      (中間評価) △      • 「選択」の機会を意図的に設定。視線入力装置、マカトンサインなどを活用した。保護者とも相談した。(小A)      • 生徒の自発的な発信「～したい」等を教員が受け止め、安心感を持ち、信頼関係が構築できるようにした。(中A)      • コミュニケーション力育成のため、担任以外の様々な教員との関わりを実施しようとしたが十分にできなかった。(高A)      • 流れや手順などを写真、イラスト、文字などで提示した。余暇やトイレなど意思表出できる場面を設定した。(小中B)      • 視覚支援を活用し、場面にふさわしい言葉や行動を示して、自発的に伝えられるよう指導した。(高B)      ②(目標)児童・生徒と保護者が主体的に進路を選択できるよう支援する。      (中間評価) ○      • 新しい進路先の開拓を行った。(7件)      • 7月に教員向け進路研修会「平塚支援学校における福祉型障害児入所施設の進路支援」を実施した。      • 教員向け進路先見学会を実施した。(7回)      • 保護者対象の進路説明会や進路先見学会を実施した。(8回)      • 事業所の地図を作成、保護者面談で活用予定(小A)      • 現場実習の評価表を活用し、生徒や保護者と強みや課題を共有した。(高B)</p> <p>(4) 地域等との協働      ①(目標)地域資源を積極的に教育活動に生かすとともに、地域と学校が相互に支えあう関係を目指す。</p>

	<p>(中間評価) ○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベント、授業、防災、外部講師など様々な地域資源を教育活動に活用することができた。</li> <li>・ 花菜ガーデンの放水訓練に教職員が参加した。</li> <li>・ 花菜ガーデンにおいて、本校の概要を紹介した。</li> </ul> <p>② (目標) 学校コンサルテーションの視点を重視した教育相談や情報提供等による支援を実践する。</p> <p>(中間評価) △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平塚市、伊勢原市との打ち合わせを実施し、ケース会の持ち方について確認。コンサルティ参加型ケース会を実施。</li> </ul> <p>(5) 学校管理・学校運営</p> <p>① (目標) 地域と連携した防災を目指し近隣自治会との連携の基礎を構築する。</p> <p>(中間評価) ○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寺田縄自治会の防災訓練に参加した。</li> <li>・ 平塚市障がい福祉課と福祉避難所等について協議した。</li> <li>・ 寺田縄自治会、飯島自治会と防災部会を実施し、災害時の対応や課題について話し合った。</li> </ul> <p>② (目標) 授業準備のための時間確保の視点から、業務改善を進める。</p> <p>(中間評価) ○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マニュアルの見直し(プールや会計)を行っている。</li> <li>・ 業務アシスタントの効果的な活用が進んでいる。</li> <li>・ Teamsチャットによる、連絡、周知、意見集約等がうまく機能している。</li> </ul> <p>(協議)</p> <p>(1) ICTに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な取り組みについて分かったが、保護者にはどのように共有できているか。</li> <li>● 個別面談、個別教育計画、連絡帳、面談等で共有している。</li> <li>○ ICT活用の実態がよくわからないという保護者もいると思われる所以、取り組みについて共有し、可能なものは家庭でも生活の中で取り組めるとよい。</li> <li>● 今後、学校評価の内容に合わせたアンケートを保護者、職員に取る予定である。保護者は、ICTという言葉がよくわからない場合もあり、学校の説明が不足しているかもしれない。</li> <li>○ 高校を卒業して社会に出たときに進路先において、その機材を用いた取り組みができるとよいが、そのあたりはどうなっているのか。</li> <li>● 神奈川県では、一人一台端末が配備されており、それは生徒個人の持ち物となっている。そのため、卒業後は進路先に持っていくことができる。どのように活用してきたかなどは、移行支援会議で伝えている。どのくらい活用しているのかは情報が不十分</li> <li>○ 生徒の卒業後に働く職場で、ICTを取り入れてくれるのか協議していただけるとよい。</li> </ul> <p>(2) 進路支援・指導に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新しい職場の開拓は、学校から企業に働きかけるのか、それとも企業からの問い合わせがあるのか。</li> <li>● 企業から見学の誘いがくることもあるし、学校から働きかけることもある。生徒の希望と仕事のマッチングが重要なので、7件が多いとか少ないとかは一概には言えない。年によって、生徒の状況が異なるので、1回断られたからあきらめるのではなく粘り強く働きかけることが重要と思っている。</li> <li>○ 企業側からは児童生徒の実態がわかりにくいなどの課題があるかもしれない。企業側の視点はどうか。</li> <li>○ 企業としては障害者の雇用は必須だが、どこに相談したらいいのかわからないというのが実情。支援学校に相談してみようという発想には至りにくい。支援学校からの働きかけは有効だろう。</li> </ul> <p>(3) 人権に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員の人権尊重の意識を高めるための自己点検シートについて。自分でなく、他者からの評価もあってもいいのではと思う。</li> <li>● 以前は学校評価において、第三者評価というのがあったが、それは終了となっている。今回、自己点検シートをもとに校長面談を実施した。「まあまあできている」という回答だった職員には、その回答を選んだ理由は何なのかと確認した。</li> <li>○ アンケートを面談に活用するのは良い取り組みである。</li> <li>○ 職員人権研修会のアンケート結果に、「心理的安全性が高い職場を作ることが難しい」とある。職員の心理的安全性が守られることは、子どもたちの心理的安全性も守られることにつながる。なぜ難しいと感じるのか。脅威があると意見が言いにくい。しかし意見が言えるとリスクの回避につながる。何が脅威、ハードルになっているのか。言いにくい雰囲気があるのだろうか。</li> <li>● ないとは言えないと考える。普段、同じ職場にいても、相手を知らない、あまり話したことがないということがハードルになっているかもしれない。だからこそ、職員人権研修のグループワークができてよかったです。</li> </ul> <p>(4) 教員の働き方に関するこ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 業務アシスタントの活用は良いことだと思う。行政の仕事は、書類仕事が多いと感じている。また、先生たちは、授業中には他の学校とも連絡取れないでコンタクトを取ろうと思っても時間がかかり、大変なのだなと思っている</li> <li>● 学校としては、特に私費会計業務が煩雑で、教員の負担感が強いため、業務アシスタントに移管したいと考えている。</li> </ul> <p>(5) 防災に関するこ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「非常食の配慮食の準備不足が判明した」とあるが、計画的に実施してそのことがわかったということなので積極的な姿勢と評価できると考える。△は辛めの評価だと思う。</li> </ul> <p>3 切れ目ない支援部会</p> <p>〈報告〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放課後等デイサービス事業所連絡会では、災害時のお迎えについて、事業所への子どもの引き渡しのタイミングについての課題を共有した。</li> <li>・ 学校コンサルテーションにつながる支援については、地域の学校のニーズとのずれがあった。地域の先生たちのニーズは「早くヒントを教えてほしい」、「講義形式で教えてもらいたい」というもの。地域の学校ニーズにこたえ、支</li> </ul>
--	--

	<p>援学校からの講義の時間をとるとともに、ケース会で先生方からの意見も聞いていくというのが今後の作戦である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インクルーシブハブ湘南について、「みんなのためのしめてるか。」というイベントでブースを出す予定である。またベルマーレ応援給食を計画しようと考えている。</li> <li>今年度初めての取り組みとして、福祉機器展示会を実施した。</li> <li>外部団体の協力を得て、心魂プロジェクトやアフリカンダンスのコンサートを実施できた。</li> </ul> <p>（協議）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域での活動として、7月に花菜ガーデンの夏の研修（放水訓練）に12名の職員の方に参加していただいた。また花菜ガーデンの職員に対して、平塚支援学校の概要についてのプレゼンテーションをしていただいた。</li> <li>○ このような良い取り組みをぜひ評価に記載をしていただくとよい。</li> <li>● 今後、花菜ガーデンのことについて、教員にプレゼンしていただく予定である。</li> <li>○ 平塚支援学校が花菜ガーデンの隣にあるというのはとても幸運なこと。花菜ガーデンは、人を盛り上げることについてのプロフェッショナル。スタッフ教育が素晴らしいと聞いている。これは教育に活かせる。</li> <li>○ レゴランドなども、全職員が自閉症や発達障害の研修を受けているとのことである。</li> <li>○ ベルマーレとの学習が小Aの日常の学習に取り入れられているのがよい。「日常」ということが重要。</li> <li>○ 学校コンサルテーションについては、支援学校が考えるほど、まだ地域の学校は準備が整っていないのだと思う。過度な期待はせずに、作戦を考えていくことが大切である。</li> <li>● 学校コンサルテーションについては、昨年度、ケース会議に全職員が出席してくれたことで、組織への働きかけができたという手ごたえを感じられた巡回相談があった。この事例について、市教委も評価していたので、今年度本校で重点的に取り組みたいと考えた。</li> <li>○ 地域の学校では、日々、目の前で起きていることに対応することで精いっぱいのところもある。そのような状況に対しても、支援学校が、共感的理解を示し、一緒に高めていこうと寄り添っていくことが大事である。</li> </ul>
4	防災部会
	<p>（報告）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域と共同した防災を目指し、7/21に寺田縄地区の防災訓練に参加させていただいた。</li> <li>・ 9/17に寺田縄自治会、飯島自治会の方に学校訪問していただき、避難訓練を見ていただいた。意見交換を行った。</li> <li>・ 平塚市障がい福祉課に出向き、避難所開設について協議した。</li> </ul> <p>（協議）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合計で2回地域との会合を持った。学校として地域の人が来たら断れないという言葉は安心した。金田小学校はここから遠い。高齢者は支援学校のほうがよいと言っており、自分たちの思いが、学校に伝わったと感じた。このように地域との協働が深められるといよい。</li> <li>○ 花菜ガーデンでは、一時的な避難はできるが、建物は観光施設としてガラスに囲まれているため避難施設として適切ではない。井戸があるので、災害時に使えるのではと思う。</li> <li>○ 平日の発災、休日の発災など状況が異なる。ケーススタディはしているのか。</li> <li>○ いろいろ状況が想定されるので、これから詰めていく。</li> <li>○ まさに堂々巡りの議論をたくさんすることが大事である。</li> <li>○ 支援学校特有かというとそうでもない面もある。小中高校も同じ問題がある。いろいろな意見や情報を集めるとよいのでは。</li> <li>○ 平塚市内の支援学校4校で意見交換するとよい。あるいは近隣の小中学校との情報共有は？</li> <li>● いまのところしていない。</li> <li>● 学校が困ることは何かということを地域の方にも知ってもらわなければならないと思い、教員にアンケートをとった。不安な気持ちを記述した教員が多かった。自分の子供を家に置いていかないなど。本校の教員は平塚市在住が1/4に過ぎない。学校、地域の思いを市と共有しないと次の一步に進めないと感じた。</li> <li>○ 自治会には、何かあれば金田小、金田公民館 市から人的支援の要請がくるが、寺田縄の人的資源には限りがある。高齢者が多い。学校側の課題、地域の事情を市に伝えていく必要がある。</li> </ul>
5	熟議
	<p>テーマ 「社会参加に向けた主体的、自発的なコミュニケーション力の育成を図るには？」</p> <p>（報告）</p> <p>1回目の学校運営協議会では、本校の課題を共有し、委員の皆様から、コミュニケーションの問題は人権の問題であり、児童生徒を主語にして、当時者目線を忘れてはならないというご意見をいただいた。</p> <p>① その後の取り組みと成果</p> <p>外部専門家による授業観察の助言を通して、絵カードを交換してコミュニケーションを行う指導を小Bで実践した。児童が要求を伝えられるようになり、落ち着いて給食を食べられるようになっている。他の場面、他の児童にも取り組みが広がりつつある。</p> <p>② 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害特性等による子どもたちの経験の少なさという現状がある。</li> <li>・ 学校という枠の中で、子どもたちがやりたいことと教員や保護者のやらせたいことがうまくマッチしないこともある。</li> <li>・ 校内外の交流、地域活動を通して、様々な人と出会い、関われる授業を展開している。ここからさらに外に出ていく活動を増やしていくのは難しい。</li> <li>・ 高等部の生徒では、SNSに関するトラブルが増えている、新たなコミュニケーション支援のニーズが生まれている。</li> </ul> <p>③課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒が自分に合った方法を使って、自分の気持ちや要求を発信できるようになる。</li> <li>・ 学校の教育活動を通して、児童生徒が自分の好きなことや得意なことを見つけたり、広げたりしていく。</li> <li>・ 児童生徒が様々な人との関わりの中で社会性やよりよいコミュニケーションの仕方を身につける。</li> </ul> <p>（協議）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 絵カードによるコミュニケーション指導の取り組みはよい。その中でどのようなカードをどのように使っているのか。</li> </ul>

	<p>(ここで給食の時間を活用したコミュニケーション指導の動画を視聴)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会性への一歩である。</li> <li>● お皿でなく言葉代わりのカードを渡すようになった。トイレのカードを持ってくるようにもなった。</li> <li>○ 素晴らしい取り組みなので、ほかの学校や家庭にもぜひ広めてほしい。ぜひプラッシュアップを。</li> <li>○ 「伝える」方法として、ICTの活用なども柔軟にやっていけたらいいと思った。</li> <li>○ ICT活用も含めて、子どもが伝わったという実感を持つ手段について考えていくとよい。</li> <li>○ 学校としてSNSをトライアル的に使用し、先生がSNSのノウハウを蓄積して、教育に役立てるといい。子供同士のSNSグループを作つて学ぶなども。対面では話せなくとも、ゲームなら話せる子もいると聞いた。</li> <li>● SNSの指導に関しては、携帯スマホ教室を行つて指導しているが、ご意見のような積極的な活用は考えていなかつた。</li> <li>○ よい取り組みは外にぜひ出していって。ほかの学校からも情報が得られるとよい。</li> <li>○ 放課後等デイサービスで心理士をしていた。学校で絵カードを使っていることを放デイにも伝えると、そこでも使い始めて一貫した支援になる。移行時にも伝えてもらえる。食べたい・トイレは生理的欲求。それ以外の欲求も広がっていくだろう。ほかの子にも波及していくだろう。今後が楽しみ。</li> <li>○ 社会に出たときのことを考えると、ある会社や施設に入ったときに自分の意思を伝える方法があるのは重要。また。他者がその生徒に何かを要求するときにもコミュニケーションが必要。社会参画を考えると、相手の要求を受け止める手段があることも重要。</li> <li>● 実務研修というのがあり、職員が特例会社のクリエイトビギンなどで研修をする。そこでは手順書があり、「なにをすべきか」が明確に提示されていて正しくできていた。卒業後の生徒たちが言葉だけではなく手順書を使って働くことができている。そのようなものを学校でも準備していくことを進めていきたい。今回の絵カードコミュニケーションの指導で、先生たちから「子どもがこんなに変わらと思わなかった」という感想があつた。先生たちの気づきにもなっている。</li> <li>○ カードについて、湘南支援学校はたくさん使つてゐる。子どもたち自身がカードを身につけていて、自分の好きなもののを作るということができるとモチベーションが上がりそう。家にも持ち帰つて使えるとよいだろう。</li> <li>○ 他者の要求を受け取ることの難しさについてはよく耳にする。ソフトランディングできるとよい。</li> <li>○ 学習活動の中で、SNSをトライアルでやってみて学べるとよい。トライアルなら失敗も学びになる。</li> <li>○ 絵カードを使ったときには、子供の手段は絵カードだが、大人はそれを使わず、言葉（口頭指示）になる。早いうちからコミュニケーション手段を持つということは、相手と交渉することができるということ。相手と関わる機会を作り、遠慮しないやり取りができる。子ども相手では「これくらいでいいか」となりがちだが、対等にやり取りする機会を積み上げていく。そういう意味で、小Aのベルマーレとの日常的な活動はよい。その中で相手とのコミュニケーション機会が生まれる。</li> <li>○ 防災教育に生徒が入つてくるなら、リアルなコミュニケーションが持ち込まれるということになり、それが対話的、協働的な学びというものである。社会でのコミュニケーションということをより進められるのではないか。</li> </ul> <p>6 校長のことば</p> <p>この会を通して、自分たちがやつてきたことが俯瞰できる。職員会議で、先生たちがやる気になるように伝えていきたい。今回、先生たちがコミュニケーション指導をやってみて、子どもが変わって、「こうできるんだ」とわかつたことがよかつた。どう定着させていくかが今後の課題である。</p> <p>7 事務連絡</p>
--	---